【稲敷市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年1月）等を踏まえ、稲敷市では、発達段階や教科等の特性に応じてICT機器やデジタル教材等を活用した効果的な指導法の研究・実践に努めることで、児童生徒1人1人に個別最適化された学びの実現を目指す。

2. GIGA第1期の総括

稲敷市では、国のGIGAスクール構想を踏まえ、令和2年度より1人1台端末及び校内通信ネットワーク等の整備を進め、さらにICT支援員の配置や学習支援ツールを導入するなど学校現場におけるICT活用のための環境の充実に努めてきた。授業でのICTの活用は順調に進んでいるが、教職員のICTを活用した指導する能力については個人間・学校間で差が大きいため、教職員のICTを活用した指導力の向上が求められると考えている。

3. 1人1台端末の利活用方策

端末の利活用を進めていくにあたり、端末の整備・更新により、児童生徒向け1人1台端末環境を引き続き維持していくと共に、1人1台端末の利活用方策として以下について検討していく。

1：学習場面に応じたICT活用の推進

各教科等の指導でICTを活用することは、児童生徒が学習への興味・関心を高めることに繋がり、授業内容の理解への助けとなることで、主体的かつ対話的で深い学びが可能となる。個別最適化された指導の充実に努めるため、端末の活用状況や学習支援ソフトのデータの分析を行い、個々の児童生徒や教科の特質に合わせた指導法の研究と実践に努めることで、授業における1人1台端末の活用を推進する。

2：教職員がICT環境を活用するためのサポートの充実

1人1台端末や電子黒板等の整備によってICT機器やデジタル教材が各学校に増えたことで、操作の習得やICTを適切に活用した授業改善、機器の設置準備等、新たな業務が発生している。教職員が効果的にICT環境を活用し、円滑に業務を進めることができるよう、ICT支援員の配置や教職員のスキルアップ研修の開催等、サポート体制の充実に努める。

3：情報モラル教育の充実

情報モラル教育については、地域・学校・家庭における教育が重要であるほか、児童生徒が、インターネットを適切に活用する能力が必要とされていることから、社会教育や家庭教育と併せて、学校教育におけるインターネットの適切な利用に関する教育が求められている。インターネット犯罪や有害サイト等に関する知識の習得及び情報モラルの向上を図ると共に、家庭におけるSNSを含んだ情報モラルに関するルール作りを進める。

4：プログラミング教育の充実

プログラミング教育の目的は、プログラミングのスキルを身に付けるだけでなく、児童生徒1人1人の発達段階における論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成とされている。そこで、小学校においては1人1台端末を活用した情報手段の基本的な操作の習得及びプログラミングの体験等の学習活動に取り組む。また、中学校においても、技術・家庭科の授業で、より高度なプログラミングによって課題を解決する学習活動の充実を目指す。

5：ICT機器の活用による児童生徒の学びの機会の保証

稲敷市の小中学校では、校内のICT環境の整備と同時に、不登校児童生徒や病気療養児が授業に参加することができるように、1人1台端末を活用した遠隔教育を実施している。今後も、こういった取り組みを継続するとともに、ICT機器を活用した同時双方向型通信による授業の充実や学習相談の実施などについて検討し、どのような状況であってもすべての児童生徒が、学校教育による学びの機会を与えられるように努める。